

政策別評価

政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

◇施策(1) 人権施策の推進

目 標	<p>基本的人権の尊重という普遍的な視点から、総合的・体系的な教育活動の推進、人権教育に係る学習機会の充実などに取り組み、社会的身分・門地(家柄)・人種・信条・性別・年齢・障害の有無等による差別のない、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重する社会を目指します。</p>
担 当	<p>学校教育課</p>
取組状況	<p>入間市人権教育推進委員会主催の授業研究会を年2回(小学校で2回)実施、活用事例を『入間市の学校教育』に掲載し、市内各校への周知を図っている。授業研究会においては、あたたかな共感的人間関係をベースとして、児童の主体的な学習活動が展開された。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr/> <p>コロナ禍であったが、授業研究会を年2回実施し、『人権感覚育成プログラム』の普及・啓発を推進することができた。学校での学びを学校と家庭との連携で見守っていくことの大切さや、人権の視点をもって日々の教育活動にあたることの意識の高揚を図ることができた。</p>
今後の方向性	<p>引き続き、年に2回の授業研究会を実施し、『人権感覚育成プログラム』のさらなる普及を目指す。また、「人権感覚育成プログラム」の指導とともに、部落差別解消推進法の趣旨をふまえ、人権教育の指導の工夫・改善を図るための研修及び授業実践を実施していく。</p>
担 当	<p>社会教育課</p>
取組状況	<p>人権問題に関する講演会や講座を通して、広く市民に人権感覚を養い、問題解決のための学習の機会を提供している。</p> <p>人権教育推進事業として、小中学校PTAが実施している家庭教育学級において人権問題をテーマとして取り上げた。また、人権教育実践報告会用に、学校・PTA・公民館が今年度の人権教育の取り組み事例報告書を作成した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr/> <p>人権啓発講座は新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、公民館と社会教育課による共催事業として5講座実施し、広く市民の人権感覚を養うことができた。</p>
今後の方向性	<p>市民の身近な人権課題の解決に向けて事業を実施していく。また、性的少数者の人権をはじめとする様々な人権課題に取り組んでいく。</p>

担 当	公 民 館
取組状況	広く地域住民に人権への意識を高める学習の機会を提供している。今年度から事業の実施体制を見直し、地区公民館13館を9地区に分け、新たに人権教育事業を推進する体制を構築した。9地区のうち5地区については、社会教育課との共催による人権教育推進事業として5つの講座を実施した。
自己評価	B 今年度は、全ての地区公民館で人権教育事業を実施することができた。人権教育推進事業について、「同和問題」、「性的少数者の人権」、「インターネットと人権」、「外国人と人権」、「災害時における人権」の5つのテーマを取り上げ、講座を実施した。社会教育課と連携を深めることで、より質の高い講座を提供することができた。
今後の方向性	現実施体制を継続し、人権教育に関する様々なテーマを取り上げ、全地区公民館で人権意識の高揚、啓発に関する事業を実施していく。

◇施策(2) 平和施策の推進

目 標	「入間市平和都市宣言」の趣旨に基づき、基本的人権の尊重という普遍的な視点から、平和の尊さについての啓発活動を推進し、平和意識の高揚を図ります。
担 当	学校教育課
取組状況	平和を考える講演会、平和ポスターをアリットに展示。
自己評価	A 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小して実施となった。平和ポスターの取組については、小・中学校の夏季休業が短縮された中ではあったが全校に依頼をし、116点の応募があった。(令和元年度72点)
今後の方向性	新型コロナウイルス感染状況を把握し、中学校全校での「平和を願う講演会」を実施していく。実施にあたっては、各校における事前指導の在り方(社会科による事前指導等)の工夫を促していく。

◆外部評価

施策・事業の筆頭に「人権教育」が掲げられていることで、教育委員会が教育の本質を大切にしている姿勢が伺えます。「人格の完成」という教育の目的を実現するうえでは、人権教育が一番の基礎であり、土台になります。

具体的な施策内容としては、予定されていた研修会や企画がコロナ禍のために中止になるなど、大変苦慮されながらも、実現に向けて工夫を重ねた様子がうかがえました。『戦争体験者等による「平和を願う講演会」』については、事業実績及び評価点数が空欄になっており、前例のない事態だろうと思いますが、関係者一同苦渋の判断の結果だっただろうと推察いたします。昨年度の経験を踏まえて、コロナ禍が続いたとしても何かしらの形で実施できるよう、工夫と検討を重ねていただければと思います。また、人材確保について長期的に課題となっている様子が伺えました。人材確保と育成については、入間市だけの問題ではなく、特に若い世代の参加が全国的に難しい課題となっています。「課題及び改善点」で挙げられた数々の課題を拝見しましても、すぐに抜本的な解決を図ることはなかなか大変だろうと推察いたします。対症療法的ではなく、構造的に問題を解決する道を模索する必要がありそうです。

人権教育に関する取り組みは、継続することそのものが大切な施策・事業です。コミュニティを根底から支える基本的な柱として、本質的に行政の責任において実現すべき大切な仕事になります。コロナ禍への対応が続いて苦慮する時間が続くだろうと思いますが、施策の目的はそのままに、手段については前例に囚われないで新しい試みを工夫しながら、事業の継続をよろしく願います。

政策2 生涯学習

第1項 生涯学習の推進

◇施策(1) 学習環境の充実

目 標	市民のだれもが、いつでも、どこでも主体的に学習に取り組むことができ、だれもが気軽に参加できる学習機会の提供などを市民との協働により進めることで、学習環境の充実を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	だれもが気軽に参加できる学習の機会を提供するため、生涯学習情報紙「かがやく」や「生涯学習ガイドブック」等を発行した。併せて、ホームページに掲載した。「生涯学習茶の都出前講座」を行い、市政への理解を深めるとともに市民の学習活動を支援した。
自己評価	B 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画どおりの事業の実施が難しいなか、情報紙(かがやく、生涯学習ガイドブック等)については、発行回数を調整するなど工夫して実施することができた。生涯学習茶の都出前講座については、感染拡大防止のための様々な措置を受け、申し込み数が減少したり、中止になるなど実施講座数は例年の30%程となった。
今後の方向性	多種多様な市民のニーズに応えられるよう、コロナ禍においては特にWEBを活用した情報発信を行っていく。

◇施策(2) 学習活動の充実

目 標	多様化するライフスタイルに応じた現代的・社会的課題や目標を、市民や市民活動団体が共有し、学び合い、支え合い、高め合えるような学習活動の充実を目指します。
担 当	社会教育課
取組状況	市民がともに学び合うための環境整備に取り組むために、生涯学習をすすめる市民の会と協働して事業を行った。
自己評価	A 「まちの先生講座」や「生涯学習けいじばん」など生涯学習をすすめる市民の会と協働して実施できた。
今後の方向性	子ども音楽大学いるまについては、武蔵野音楽大学の大学機能が移転しており、今後の実施について、調整を図っている。 生涯学習をすすめる市民の会については、会員数の減少が問題となっているので、幅広い年齢層の会員拡充が課題である。

担 当	公 民 館
取組状況	地域住民が自ら企画運営する事業の支援、世代間交流事業、地域交流事業、地域の伝統文化を守り育む事業を実施した。
自己評価	B コロナ禍において、公民館活動が制限される中、地域住民が企画する事業の支援、様々な交流事業、伝統文化を守り育む事業ともに大幅な縮小あるいは実施数減少となった。実施に至った事業については、コロナ対策を充分に行い、内容を見直し実施することができた。
今後の方向性	地域課題の解決に向けて、課題を的確に把握し問題解決に向け、地域の人材発掘・活用を進める。様々な交流事業については、今後も継続し地域コミュニティの充実に努めていくとともに地域の伝統文化を守っていくため、団体の活動を支援していく。また、コロナ禍における新たな事業展開を検討する必要がある。

◇施策(3) 学習成果の活用

目 標	学習を通じて地域課題の共通理解を進め、市民のまちづくり活動への参加を促進するなど、学習成果の地域への還元を促進するための仕組みや環境を整備します。
担 当	社会教育課
取組状況	生涯学習活動の成果、活動状況の発表の機会を提供する目的で、「文芸入間」の発行及び生涯学習フェスティバル特別企画のシンポジウムを開催した。 文芸入間については、読者の興味を引く内容とするため特集記事に関して工夫をしている。 市民活動団体との協働により、学習成果を地域やまちづくりに活かすことを希望する市民を講師としたまちの先生講座を実施した。
自己評価	A 文芸入間については、編集委員の協力により発行することができた。特集記事に関して読者からの評価が高く、良い作品となった。 生涯学習フェスティバル特別企画のシンポジウムについては、インターネットで同時ライブ配信を実施し、参加者が会場に来なくても視聴できるよう工夫した。 まちの先生講座については、延べ人数200人が受講し、参加者の約97%が「満足」という結果になった。
今後の方向性	「文芸入間」については、投稿者の高齢化及び減少がみられるので、新たな投稿者拡充が必要である。 生涯学習フェスティバルやまちの先生講座については、現代的・社会的課題の解決につながる企画となるよう進める。

担 当	公 民 館
取組状況	地区文化祭や各種芸術の発表会等については、地区文化協会や各種団体との共催により、開催した。
自己評価	B コロナ禍ではあったが一部の地区文化祭や芸術の発表会について、地区文化協会や関係団体の協力により、日頃の学習成果の発表の場として、開催することができた。今後も地域との協力体制を継続し実施していく。
今後の方向性	今後も地区文化協会や各種団体との協力体制を維持・継続し、地域で活動する団体が学んだことを、地域に還元できるような事業の実施に努めていく。また、コロナ禍における事業の実施方法、実施内容を検討する必要がある。

◆外部評価

施策(1) 学習環境の充実

概ね事業評価点数は達成と捉えられていましたが、妥当だと判断します。学習情報紙やインターネットでの提供、ガイドブックなど、コロナ禍でも対応できる内容であることが、大きな評価の点だったと考えます。その中、とりわけ『生涯学習茶の都出前講座』に関しては、目標40回以上の実施が、コロナ禍においても12回実施されたのは、もう少し評価点数を上げて良いのではないのでしょうか。困難な中での取り組みこそ、そのための対策や、対応の苦労があったわけであり、点数評価の主な理由にも挙げられていた「できる限りの講座開催」という文面に込められた行政実施の責任と見え隠れしていました。

施策(2) 学習活動の充実

生涯学習フェスティバルの実施に関して、まさに先を見た取り組みが行われたと思います。代替としての特別企画シンポジウムの実施と共にインターネットライブ配信など、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた上で、特筆すべき取り組みであり、事業評価点数は、もう少し高評価でも良いのではないかと感じました。残念ながら、地域住民の自主的な事業支援や、世代間交流・地域交流事業など、実施できずに評価が低いものがありました。その対応や次への取り組みがなされているならば、この評価も再考が必要だと思います。特に、伝統文化を守り育む事業においては緊急の課題でもあり、そのための対策を人との交流ではない場所から始める可能性を模索する必要もあると感じています。

施策(3) 学習成果の活用

先述した生涯学習フェスティバルの開催における評価をもう少し上げるべきだと感じます。また、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言後の秋からの取り組みで、ほぼ計画通りに実施できた「まちの先生講座」についての評価は妥当であると共に、オンライン講座を見据えることで、より時代や社会的背景、住民の要望に寄り添うものになると確信しています。

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

◇施策(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

目 標	児童生徒に対する教育的支援の充実を図り、子どもたちの「生きる力」を育みます。
担 当	教育総務課
取組状況	良好な教育環境を確保するために、教育教材、管理備品、図書等の整備・充実を図る。また、GIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒1人1台のタブレット端末を導入することができた。
自己評価	A 小中学校で使用する教育教材、管理備品を計画的に購入することにより、学習効果が高まった。 図書の整備については、各学校の学校図書館図書標準の達成(充足率100%)を目指した結果、令和3年3月末の充足率の平均は小学校で91.02%、中学校では81.70%であった。 令和2年度中に、児童生徒1人1台のタブレット端末を導入し、GIGAスクール構想を実現することができた。
今後の方向性	財政状況は厳しいものの、教育活動に支障をきたすことがないように、教育教材、管理備品、図書等の更新に努める。また、図書の整備については、学校図書館図書標準の達成(充足率100%)を目指す。 児童生徒1人1台のタブレット端末導入により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを実現できるよう、事業の継続を図る。
担 当	学校教育課
取組状況	コロナ禍で「新しい生活様式」の徹底を求められる教職員の負担軽減を図るため、各学校にスクールサポートスタッフと学習指導員を配置した。また、小中一貫サポーターを全小学校に配置し、「小中一貫教育」の充実を図った。 生徒指導訪問により、学校の生徒指導、教育相談上の課題をきめ細かく把握することで、市役所、警察等の関係部署とのスムーズな連携につながっている。 幼稚園、保育所(園)、小中学校への巡回支援、特別支援学校との連携を、発達に特性がある子供への早期支援や子どもが学ぶ環境の充実につなげた。 中学校進学前の学用品費入学前支給を継続実施することで、経済的な支援が必要な家庭を確実に支援し、子供が安心して学校に通える環境づくりを進めた。
自己評価	B 今年度はコロナ禍により6月からの教育活動を実施したが、可能な範囲で工夫しながら小中一貫教育や巡回支援等を実施した。 学校は「新しい様式」の徹底を図りながら学校運営を続け、運動会、体育祭、修学旅行などの学校行事も実施することができた。児童生徒は全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。一方、不登校児童生徒数が増加傾向にあり、施策の充実を図る必要がある。
今後の方向性	学校と市教委、関係諸機関が情報を共有し、適切な対応を行えるよう、これまでの施策をさらに充実・発展させていく。新学習指導要領完全実施に伴い、子どもたちに「生きる力」を育む教育を充実させていく。

◇施策(2) 学校教育内容の充実

目 標	子どもたち一人ひとりについて、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を目指します。
担 当	学校教育課
取組状況	<p>学校指導訪問は、西部教育事務所や市内管理職と連携し、指導者がリーフレット等を活用し、マンツーマンで授業者を指導することができた。</p> <p>ふるさと入間を愛する心の育成を目的とした「狭山茶とふれあう教育」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度については大部分の事業を中止した。</p> <p>体力向上については、体力向上推進委員会にてコロナ禍での体力向上策を検討し、各小中学校へ周知を図った。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成に向けた教職員の資質向上を目的とした研修については、コロナ禍により様々な活動が制限される中、工夫して実施した。研修の成果が各種の学力調査の結果等に反映されているとまでは言えない現状であり、年々経験の浅い教員の割合が増える傾向にある本市においては、人材育成は大きな課題である。</p>
今後の方向性	計画されている施策・事業を確実に実施し、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を推進する。タブレット端末の活用について研修を進める。
担 当	学校給食課
取組状況	旬の食材や地場産(県内産・入間市産)の農作物を使用した給食、月1回の行事食の提供を行った。(4月から6月まで新型コロナウイルス感染症の影響により提供できなかった。)
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>国内産の食材を使用した季節感のある給食の提供ができた。また、食材の放射性物質検査や残留農薬検査を実施した。調理員等の保菌検査や研修等を行い、安全衛生管理の向上に努めた。</p>
今後の方向性	旬の食材や地場産物(県内産・入間市産)の給食の提供や月1回の行事食を継続していく。 食品検査、残留検査等の衛生に関する検査についても継続していく。

◆外部評価

やはりコロナ禍のために計画していた研修や企画が思うように実行できず、大変苦慮している様子がうかがえました。外部組織や地域と連携した学習活動などが軒並み中止となり、事業実績や事業評価点数そのものを示せない項目が多いのは、前例がない事態だろうと推察いたします。前例のない緊急事態ということで、令和3年度は空欄でも仕方がないところではありますが、今後については、どのような代替措置がとれるか、工夫をして可能性を模索していくべきところでもあります。例えば、研修会や勉強会はオンラインでも開催できますし、実際やってみると既存の研修会よりも多人数の参加が可能だったり、あるいは交通費や時間が節約できたりするなど、極めて利点が多いものでもあります。利用可能なテクノロジーを積極的に導入・活用するなど、手段については前例に囚われることなく、目的については改めて施策・事業の存在意義を明確にして、具体的な取り組みを進めてください。

個別案件では、「コミュニティスクールの検討」に対する事業評価点数が「3」と低めについていることが気になります。他の自治体では、急速に導入が進んでいるところでもありますし、仮に先進地域への視察等が難しかったとしても、具体化に向けて、早め早めに手を打つのが良いだろうと思います。他の施策・事業、例えば「小中一貫教育」「学校評価の充実と積極的な広報」「学校評議員制度の充実」「家庭・地域との連携・協働を通じた学校づくりの推進」「学校と地域をつなぐ、地域交流研修会」等と有機的に関係する課題ですので、これまでの取り組みを総合していくことで、実現への道が見えるのではないだろうかと思察いたします。

第2項 子ども・子育て支援の充実

◇施策(1) 幼児教育の環境整備

目 標	人間形成において、非常に重要な役割を持つ幼児期の教育の充実を図ります。
担 当	学校教育課
取組状況	子ども未来室事業の取組として、「遊びと学びの手引き」や「育ちの記録シートおちゃめ」を活用している。「遊びと学びの手引き」では、幼児期・児童期の子どもの発達に即した活動例を提案することで、「育ちの記録シートおちゃめ」では、生まれた時から現在までの子どものことを記録することで、それぞれ、子どもの学びや育ちの連続性を図っている。また、保育士や幼稚園教諭の専門性を高めるため、臨床心理士や作業療法士による巡回支援や様々な研修会を行っている。これらの取組を通して、子どもの特性を理解した適切な支援が行われることを目指している。発達に課題のある子どもに対して幼児の通級指導教室「茶おちゃお」において、各施設と連携をしながら、子どもにあった支援を行うことで、小学校へのなめらかな接続が行われることを目指している。
自己評価	B 幼児期の教育を支援することで、市内の小学1年生の多くが落ち着いた学校生活を送れている。「遊びと学びの手引き」がすべての施設で活用されており、保幼小が同じ支援を行う体制が整えられている。「茶おちゃお」においては発達に特性のある幼児への支援により、集団生活への適応等の効果が上がっている。また、巡回支援等で、保育士や幼稚園教諭の専門性が高まり、指導力が向上している。 子ども未来室事業が保護者に理解される中、就学相談の件数も毎年増加しており、就学時に相談内容をふまえた対応ができることにより、小学校生活において、子どもにとってのよい学びの場が提供できている。
今後の方向性	今年度から開設された「児童発達支援センター」と連携を図り、子どもの特性に合った支援を充実させていく。

◆外部評価

コロナ禍の中、計画していた事業を実現しようと工夫している様子が見えてきました。
全国的な傾向として、近年では保護者のニーズが多様化・複雑化しつつあります。それに対応して、行政以外の民間業者やNPO等が、子ども・子育て支援に多数参入しつつあります。それに伴って、一般的には、行政に期待される役割も変化しつつあるところです。自己選択・自己責任で対応できる家庭については、各ご家庭の方針に任せると問題ないところが多いかもしれませんが、孤立しがちな家庭に対してきめ細かく対応していくのは、行政だからこそ可能な仕事になります。また、保育士の待遇を改善することが質の高い子育て支援の実現に直接的に繋がっていきませんが、これは行政の支援や指導に大きく関わってくるところになります。予算が限られる中で課題は増えていきますので、地域や民間団体の潜在的な力を掘り起こし、連携してコーディネートし、需要と供給をマッチングするための工夫と制度作りが大切になってくるころだろうと拝察いたします。

第3項 学校施設の整備

◇施策(1) 学校施設の充実・最適化

目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再配置に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進めます。
担 当	教育総務課
取組状況	統廃合の方針として、『入間市立小・中学校の規模及び配置の適正化に関する基本方針』に基づき、適正な規模と配置を検討してきた。特に、第1期前半の事業計画では、学童保育室を校舎内に受入れる計画があるため、担当課及び学校との協議を実施した。また、一部の地域においては、地域住民との調整会議に参加し、意見交換を行った。
自己評価	A 公共施設マネジメント事業計画が策定され、学童保育室に関する事業が計画どおりに達成できるよう、また、学校への影響が最小限となるよう、対象校の現地調査を実施し、学校の意見、改修内容及び課題を集約のうえ、担当課との協議を行った。
今後の方向性	令和3年度以降は、上記の基本方針及び公共施設マネジメント、学校施設個別施設計画を基に、施設の再配置やサービスの適正化など、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進める。

◇施策(2) 学校給食施設・設備の充実

目 標	学校給食にかかる施設や設備の改修、改善等を適切に行い、安全・安心でおいしい給食の安定的な提供を確保します。
担 当	学校給食課
取組状況	老朽化した調理機器の入れ替えを行い、効率的な施設の運営管理に努めた。また、食器の入れ替え(ポリエチレンナフタレート製食器)を1校実施した。
自己評価	A 機器更新により給食調理作業の効率性が維持されたほか、自校給食校においてアルマイト製食器をポリエチレンナフタレート製食器に入れ替えたことにより、食器が軽くなり、配膳の児童等の負担が減り、給食の質が向上した。
今後の方向性	機器の更新は、老朽化の状況に応じて行う。

◆外部評価

この部門での事業評価点数が高いことは、非常に心強いところです。全国的に、昨年度から今年度にかけて施設等の老朽化に伴う痛ましい事故が相次ぎ、学校での安全確保に大きな関心が注がれています。巨額の費用を必要とする施策ですし、コロナ禍によって予定外の対応が必要になることも想像されますが、子どもの生命と安全に直接関わる仕事になりますので、今後も長期的な視野で計画を立て、着実に施策を進めていっていただきたいと思います。また、「課題」でも指摘されているとおり、35人学級によって新たな視点も必要になってきます。引き続き予算を確保して、丁寧に業務・事業を継続してください。

政策4 社会教育

第1項 社会教育の充実

◇施策(1) 社会教育環境の充実

目 標	市民の主体的な学習活動や仲間づくりを促進し、活力ある地域づくりに資するため、「個人の要望」を踏まえるとともに「社会の要請」を重視した学習の機会及び情報の提供の充実を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	学びと実践があふれるまちを目指して、小学生夏休み体験一覧表の作成を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。
自己評価	— 新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントや事業の実施が不透明であったことと、小中学校の夏休み短縮の影響もあり、発行について見送った。
今後の方向性	掲載している事業や施設の拡充を図り、さらなる参加者の増加を目指す。
担 当	博 物 館
取組状況	社会教育施設として展示事業、教育普及事業を行うとともに、事業を市民へ伝えるための広報活動や、全ての土台となる調査研究活動を進めている。
自己評価	B 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、約4か月半の臨時休館となった。「ALITお茶大学」の大幅な規模縮小や、アリットフェスタ特別展、指定管理者企画展、「むかしのくらしと道具展」を中止する等の大きな影響を受けた。休館の間に資料調査や常設展示の一部更新などの取り組みを進めることが出来たが、開館が出来なかったという状況等を鑑み、B評価とした。
今後の方向性	広報誘客業務は、指定管理者が担っているが、市直営の事業と指定管理者自主事業とのバランスがとれた事業展開を図る。

担 当	図 書 館
取組状況	<p>図書館資料の充実を図るため、児童書等を2,539点、一般向けの図書等を5,180点、参考図書を263点、大活字本を101点購入した。また、視覚障害者の読書推進のため、録音資料3点を作成した他、雑誌スポンサー制度では、市内企業より雑誌27種の寄贈を受けた。</p> <p>資料の選定においては、個人の要望であるリクエストと、社会の要請である現代的課題を考慮した。</p> <p>魅力ある図書館づくりを推進するため、児童サービス研修会に参加したほか、オンラインでレファレンスや著作権の研修を受講し、職員の資質向上に努めた。</p> <p>また、コロナ禍において、臨時休館や部分開館で従来のように市民が自身で自由に資料を選べない状況に対応して、予約なしでも資料を借りられる「2冊セット貸出」のほか、有料宅配サービスを開始した。さらに、公共施設を対象に、配本サービスや不要本の配布事業を実施することで、学習機会を提供した。</p> <p>広報面では、図書館ホームページの充実を図り、コミュニティFM放送やCATVに出演するとともに、「広報いるま」に図書館トピックス特集記事を掲載し、図書館だよりを4回発行した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr/> <p>蔵書資料の充実については、適切な選書作業により、新規購入及び寄贈資料からの選定を行い、さらに資料の除籍を併用して図書館資料の更新を行い、資料点数582,693点となり、資料蔵書目標60万点に一步近づいた。</p> <p>利用促進事業については、コロナ禍においても感染対策を徹底し、工夫をしながら、実施できるものについて可能な限り実施するよう努めた。2冊セット貸出など、新規事業も行い、学習機会の提供をすることができた。</p> <p>広報面においては、ホームページや各種メディア、広報紙等により、図書館情報を提供することができた。また、メールアドレス登録者には新刊案内などの最新情報の提供ができた。</p>
今後の方向性	<p>蔵書資料については、さらなる充実を目指す。図書館入館者と貸出点数の増加を目指し、利用促進事業や広報活動の充実を図る。</p>
担 当	公 民 館
取組状況	<p>各館が公民館基本計画で掲げた学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が上がるよう努めながら事業を実施する。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr/> <p>各公民館において、公民館基本計画で掲げた学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を目指し事業を実施しているが、コロナ禍においては今までどおり事業を実施することが困難であった。</p>
今後の方向性	<p>単に趣味、教養を身につけるための学習提供ではなく、現代的、社会的な課題を捉え、学習機会を提供していく。新たな参加者を獲得していくため、効果的な事業の周知方法や魅力ある事業内容を検討する。また、コロナ禍における事業展開を検討する必要がある。</p>

◇施策(2) 家庭・地域の教育力の向上

目 標	家庭・学校・地域が連携した子育てへの取り組みや家庭教育を支援し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、可能な範囲で家庭教育学級を実施し、家庭教育の向上に努めた。また、いるまキッズアカデミーは新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたため未実施となった。
自己評価	B 家庭教育学級数については、無理のない範囲で実施し、20校のPTAが1～2回の講座を実施した。 いるまキッズアカデミーについては、実施に向けてチラシの作成等準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたためやむなく中止となった。
今後の方向性	家庭教育学級については、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施していく。感染症対策を講じながら開催できるよう、実施方法の情報提供などサポートを行う。 いるまキッズアカデミーについては、より多くの児童生徒が興味を持つような内容を検討する。
担 当	博 物 館
取組状況	社会教育施設として、郷土に関連した事業や、お茶に関する展示事業・教育普及事業、出前講座等を行うことで、家庭・地域の教育力向上に寄与している。
自己評価	B 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、博物館も臨時休館となった。様々な事業を中止し、外部からの講師依頼も減少した。下半期には学校教育への出前授業で前年度を上回る件数があり、今後への希望を感じた。しかしながら4か月半もの臨時休館、教育普及事業の柱となるALITお茶大学の大幅な縮小などを鑑みB評価とした。
今後の方向性	多くの人が1か所に集まる講座形式が採りにくい状況が続く中、教育普及事業について手法等を検討していく。

担 当	図 書 館
取組状況	<p>コロナ禍のため、例年実施している小学校3年生を対象とした図書館見学や小学校2年生を対象とした図書館利用教室は行うことができなかったが、移動図書館車の巡回や配本サービス(57か所)を行うことにより、学校と連携しながら、教育の向上を図った。</p> <p>また、感染症対策を徹底しながら、絵本の読み聞かせの「おはなし会」を全館で70回開催し、子ども読書推進策として「あれこれブックガイド」の配布や「読書ラリー」を実施し、読書機会の提供を行った。</p> <p>さらに、ブックスタート関連事業として、BCG予防接種の機会に図書館が作成した赤ちゃん向け絵本のリストを配布したり、おはなし会の代替え事業として「うちでおはなし会おたのしみセット」の貸出を行うことで家庭教育を支援した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>子どもたちの学習活動や読書活動の充実を図るため、移動図書館の巡回や配本サービスで学校と連携した事業を実施できた。</p> <p>コロナ禍においても、例年通りの「あれこれブックガイド」の全児童への配布等を実施し、可能な限り、読書機会の提供を行い、教育力の向上を図ることができた。</p>
今後の方向性	<p>家庭・学校・地域との連携を強化し、読書を通じた子供たちへの教育力の向上に努める。</p>
担 当	公 民 館
取組状況	<p>各公民館が地域の力を生かした子育て支援事業の実施と家庭教育向上のための学習機会を提供した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>母子愛育会等の地域で活動する子育て支援団体の協力や関係各課との連携により、子育て教室等を通して、子育てに必要な知識を学び、仲間づくりにつながる事業を実施することができたが、コロナ禍において事業の実施が困難であった。</p>
今後の方向性	<p>妊娠中の親や乳幼児を持つ親が安心して子育てができるように、子育て支援団体等と連携し、地域ぐるみで取り組んでいく。また、コロナ禍における新たな事業展開を検討する必要がある。</p>

◇施策(3) 青少年教育の充実

目 標	市民や地域との協働により、青少年の自尊感情・自己有用感及び社会性・創造性を育み、社会を生き抜く力の習得を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますことを目的に成人式を実施した。
自己評価	A
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2部制を3部制に分散し、式典を短縮したことで会場内の三密回避を行った。また、オンライン同時配信を行い、自宅からも参加できる環境を整えた。
今後の方向性	安心、安全な式典が開催できるよう情報提供・情報発信に努める。
担 当	公 民 館
取組状況	各公民館が、青少年が豊かな心を育む事業を実施した。
自己評価	B
	学校の夏休みと春休み期間に子どもたちの学習(宿題、自由研究等)を支援するため、会議室を開放し、子ども居場所づくり事業を実施した。様々な青少年の体験事業を計画していたが、コロナ禍において多くの事業を実施することができなかった。
今後の方向性	青少年の豊かな心を育むために、地域、関係団体等と連携しながら、今後も様々な青少年の体験活動を提供していく。公民館が幅広い世代間の交流の場、地域の居場所となるよう事業を実施していく。また、コロナ禍における新たな事業展開を検討する必要がある。

◇施策(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

目 標	先人が守り伝えてきた市内の貴重な文化財及び伝統文化を未来へ継承するとともに、地域に根ざした文化財を活かした事業を実施することで、市民の郷土意識を育みます。
担 当	博 物 館
取組状況	指定文化財の保護や、埋蔵文化財の保存に必要な事業を実施している。西洋館や旧黒須銀行では一般公開や各種事業を行うことで、保存とともに活用を図る。
自己評価	A
	指定文化財や埋蔵文化財については、適切な保存を図ることができた。西洋館では、新型コロナウイルス感染症の影響により公開や事業が一部中止になる中で、一般公開や特色を生かした事業を実施することで、市民に西洋館の魅力を伝えることができた。また、旧黒須銀行では、市民・学識経験者による市民会議の意見をもとに、保存活用に係る基本計画を策定するとともに、今後の修復改修工事のための基本設計を実施した。
今後の方向性	今後も引き続き、文化財の適切な保護保存を行う。西洋館については、一般公開や各種事業の充実とともに、より効果的なPR方法を研究し実施することで、多くの市民に来館してもらえるように努める。また、旧黒須銀行については、保存活用基本計画をもとにした復元改修工事に向けて、より具体的な実施設計を進めていくとともに、財源の確保についても努めていく。
担 当	公 民 館
取組状況	地域の伝統文化を守り、育む事業を実施した。
自己評価	B
	コロナ禍において、地域の伝統文化活動団体や関係各課と連携し、地域の伝統文化を体験する事業や地域の歴史・文化を学ぶ事業を実施することができたが、事業への取り組みが一部の公民館にとどまっている。地域の伝統文化活動団体については、後継者の育成が課題である。
今後の方向性	今後も地域の伝統文化活動団体等と連携し、伝統文化を体験する事業や歴史・文化を学ぶ事業を実施していく。地域の伝統文化の普及及び発展のため、団体の活動を支援していく。また、コロナ禍において新たな事業展開を検討する必要がある。

◆外部評価

施策(1) 社会教育環境の充実

ここまで述べてきたことと重複しますが、やはりコロナ禍の中で、何ができて、何ができず、どのように対応してきたのかが、評価の基準として重要だと考えます。特に、緊急事態宣言中の活動は、ほぼ休止しており、解除後、人の動きが戻ったときに、参加率の評価がどれほどのものかと考えます。確かに大事な基準だとは理解しますが、やはりそれだけでは、社会教育環境の充実といった視点からは、ウィズコロナの時代に対応できる内容が明示できないのではないのでしょうか。しかし、その中においても、今回、博物館における臨時休館時を利用した展示コーナーの拡充などは、評価の通り高いレベルの取り組みでした。市報「アリット広場」で博物館の情報を広報すると共に、ホームページの充実も、この時代だからこそ力を注ぐべき課題であり、それが達成できたことは、喜ばしい限りです。

また、特筆すべき点は、図書館による市民ニーズの対応や、障害のある方々など社会的弱者への配慮を、事業として実現させていったことです。予算の関係もあり、一步ずつが現状でしょうが、健康・職業・福祉関連の図書購入や、弱視の方、高齢者に配慮した取り組み、パソコンを保持しない家庭への配慮等、評価は適切でした。「図書館だより」をはじめ、ホームページの更新、コミュニティFMやCATVの活用等、できることはやるとの姿勢が、評価に結びついていると思います。ただし、「文学講演会」や「おたのしみ会」、「読書ラリー」等が取り止めになったことなど、コロナ禍のこの時期、開催困難な事業もあり、評価不能でしたが、今後の対応を含め、評価すべきです。実施できなかったことよりも、そのために、次はどのようにしようとしたのかを課題及び改善点に掲載し、改めて評価基準を明らかにしていただきたく思います。その点、評価基準は低かったですが、公民館における学習機会の提供事業は、実施できなかった部分と、実施できそうな部分を書き込むことで、点数では表れない評価ができると感じました。これは、多くの対面型の事業の評価について言えることですが、今回のようなコロナ禍では、「参加者の何%以上が」のような評価基準にすることは、事業実施現場の意欲を削ぐだけではなく、現状を反映していないとも言え、基準の再考が必要だと思われれます。

施策(2) 家庭・地域の教育力の向上

「キッズアカデミー」や「こどもお茶大学」等、対面しなければならぬ事業に関して、実施が困難だったことは止むを得ないものとして、「むかしのくらしと道具展」に関しては、展示を活用した動画配信や小学校への出前授業を実施したにも関わらず、実際に学校へ出向けなかったことを根拠として、評価不能としたことは、動画コンテンツ配信などの取り組みを評価していないに等しく、まさにここを評価基準に組み入れる必要性を感じました。(1)でも述べたように、新たな評価基準が必要でしょう。その中で、旧黒須銀行や西洋館についての講師依頼を出前授業として取り組んだ回数、目標値を大きく上回ったことは、特筆すべき点であり、人間市の財産を子どもたちへ広めていく良い機会であったと考えます。緊急事態宣言下で、朗読会などの開催ができなかったことへの評価を不能としたことは理解できます。(1)で述べたように、その中でも開催された子育て支援事業などは、参加者数が評価基準となっていますが、再考をお願いしたいです。図書館の各種団体と協力して実施する事業に関しては、実現できませんでしたが、視点としては、その事業の評価基準に、協力していただく団体への支援や育成の認識も必要だと考えます。

施策(3) 青少年教育の充実

成人式では、密を避け、工夫を凝らして実施できたことは、とりわけ一生で一度の大事な場所を行政が切り捨てることなく執り行えたということで評価も高く、その評価を支持できます。本来なら、中学生にボランティアスタッフを依頼する計画だったと思いますが、今後、その若い世代の参画を促す施策、評価基準も必要かと思えます。青少年の育成を念頭に、地域ボランティアや関係団体との連携のためのスタッフ養成や、世代交流の橋渡し役として、行政がこのコロナ禍で何を発信できるのかを評価対象にすべきでもあります。

施策(4) 文化財保護・活用の充実・伝統文化活動団体の育成支援

博物館の事業である指定文化財の新規指定や保存の取り組みは、概ね高評価であり、コロナ禍の状況下では、力点の配分といった点でも良かったでしょう。また、このような評価をアピールする必要もあると考えます。西洋館の館庭整備に関して、埼玉県ふるさと創造資金の補助を受け、実施できたことに対しての高評価は、入間市の文化財を保護し、市民に知らせるためにも必要な取り組みでした。旧黒須銀行の保存活用基本計画など、積極的な施策への評価も妥当だと考えます。

第2項 社会教育施設等の整備

◇施策(1) 施設の充実・最適化

目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再配置に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から社会教育施設の最適化を進めます。
担 当	博 物 館
取組状況	市内に同種の施設設備は存在しないため、適切な修繕をしながら長寿命化を図る方針に則り、予算計上等を行っている。
自己評価	A 当初予算としては、十分な予算は確保できなかったが、改めて経年劣化により安全性に問題な箇所が見つかった際には、庁内で調整を行うことで、適切な修繕に努めた。
今後の方向性	平成30年度から、施設設備の管理運営は指定管理者の業務となっているが、適切にモニタリングを行い、公共施設マネジメント推進課とも連携を図り、計画的な施設の維持に努める。
担 当	図 書 館
取組状況	図書館網の整備として、ダイア5市(所沢市・飯能市・狭山市・日高市・入間市)や青梅市との広域連携により、相互利用者数の増加に努めた。 また、埼玉県西部地域まちづくり協議会図書館部会での情報交換に努め、広域サービスの充実を図った。 図書館施設の計画的な整備として、設備や備品の整備を行い、快適な環境を確保し、市民満足度の向上を図った。
自己評価	A 図書館内の設備については、本館の自動紙折り機の購入、官報情報サービスの導入、西武分館への本の消毒器の新設(寄贈受入れ)ができた。また、西武分館会議室及び視聴覚室の空調設備緊急修繕やエントランス庇軒天改修が完了できた。 図書館システムについては、大きな障害もなく安定的運用が図れた。 ダイア5市や青梅市との相互利用者数の増加やサービス向上に努めたが、相互利用者数については、前年度に比べて減少した。
今後の方向性	図書館内の設備については、今後も更新を継続する。 図書館システムについては、引き続き、安定的運用に努める。 広域連携については、更なる強化とサービス向上について研究するとともに、新たな連携を模索する。 図書館の新たな役割として、市民の居場所としての施設、設備を計画的に更新できるよう、公共施設マネジメント事業計画の中で対応を進める。

担 当	公 民 館
取組状況	公民館施設の充実及びバリアフリー化に取り組んだ。
自己評価	A 緊急性の高い工事・修繕を優先して公民館の施設整備に取り組んだ。また、公民館のバリアフリー化推進のため、トイレの洋式化工事を計画通り実施することができた。
今後の方向性	今後も限られた予算の中で緊急性を判断し、優先度の高いものから工事・修繕を実施していく。大規模的な修繕については、公共施設マネジメント推進課と協議を行いながら実施していく。

◆外部評価

博物館、図書館、公民館は、コロナ対策について十分に取り組み、その評価も妥当でした。また、建築物の保全、活用に向けての取り組みに関する評価も妥当です。